

ハプスブルグ帝国と音楽たち

小宮正安



「音楽の都」の二大看板

「音楽の都」ウィーン。ウィーンを語る際、何の疑いもなしに出てくるこの呼称を聞くにつけ、まっさきに頭に浮かぶイメージは何か。観光パンフレットやガイドブックの例にもれず、多くの場合その代表格はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（以降「ウィーン・フィル」と略）とウィーン少年合唱団だろう。

ウィーン・フィルの母体となっているのは、ウィーン国立歌劇場管弦楽団。この団体に所属するメンバーが自主的に運営している演奏会用オーケストラがウィーン・フィルである。そしてウィーン国立歌劇場は、そのかみハプスブルク帝国が存在していた頃は、ウィーン宮廷歌劇場という名前だった。

いっぽうウィーン少年合唱団は、現在でも毎日曜ミサで聖歌を歌っている。場所は決まって宮廷礼拝堂。王宮の一面にある古い礼拝堂で、古くはハプスブルク家の専用だった。合唱にはしばしばオーケストラの伴奏が付くが、その顔ぶれを見ていると、ウィーン・フィルのメンバーがかなり混じっていることに気付かされる。

…と、このように、ウィーン・フィルにせよウィーン少年合唱団にせよ、「宮廷」というキーワードで繋がっていることがお分かりいただけるだろう。じっさい、両者のルーツは1498年にまで遡れる。時の皇帝マクシミリアン1世が、宮廷楽団を設立したのがことの始まりだった。

宮廷楽団の誕生

マクシミリアン1世といえば、婚姻関係を通じた領土拡張に励み、ハプスブルクのお家芸ともいえる結婚政策を確立したことで有名な人物である。みずからの父親であった先帝が奪回した栄えある「神聖ローマ帝国皇帝」の称号を受け継ぎ、それにふさわしい巨大帝国を作ろうというのが彼の目論見だった。

華々しい結婚式が催されるに伴い、様々な地域の王族たちの冠がハプスブルク家にもたらされる。その度に宮廷で祝典や宴会が頻繁に催されるわけだが、そうした場で豪華な食事と並んで必要とされたのが、優れた音楽とそれを奏でる楽団だった。

ちなみにこのような楽団は、ドイツ語で「カペレ」と呼ばれている。「カペレ」とはもともと礼拝堂のこと。支配者が宮廷に礼拝堂を設け、そこで典礼用の音楽を僧侶に執り行わせていた。と同時に、一国の主たる当の支配者を、祝典や宴会といった場で積極的に賛美してゆく機能をも負うようになっていった。

こうした事情から、マクシミリアン1世もウィーンに宮廷楽団を新たに設立したのだが、それは概ね三つのグループに分けられた。僧侶を主にした歌手、少年歌手、器楽奏者である。団員はまさしく帝国の威光を反映させるべく、ヨーロッパ各地から一流の音楽家が集められた。そして後に、この少年歌手の一団からウィーン少年合唱団

が、器楽奏者の一団から宮廷歌劇場管弦楽団が誕生したのである。

ウィーン古典派の場合

マクシミリアン1世の目論見どおり、その後ハプスブルク帝国は領土をいっそう広げた。16世紀中頃には、北はオランダ、南はイタリア、西はスペインにまで至るヨーロッパの多くの地域に加え、アメリカやアジアの一部さえもが帝国の支配下に入った。

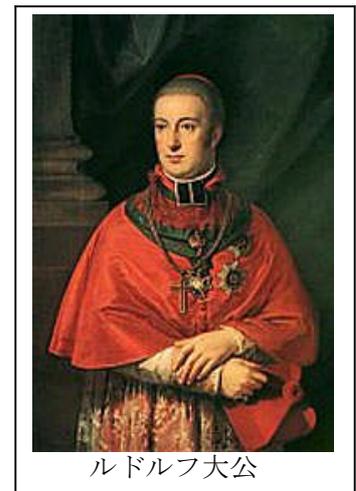
そのような輝ける世界帝国のもと、宮廷楽団が確実な成長を遂げたことは想像に難くない。ウィーンは文字通り多民族都市となり、ヨーロッパ中、とりわけ芸術の本場と言われるイタリアから秀でた音楽家たちが続々と集まってきた。

状況はフランス革命が勃発し、社会の担い手が貴族から市民に移ろうかという18世紀末になっても根本的には変わらなかった。ハプスブルク帝国の場合は、皇帝君臨の下、徐々に市民の力が認められてゆくというスタイルが取られたからである。

まさにこの時代に活躍した、ウィーン古典派を考えてみよう。彼らは皆、ウィーン以外の出身者で、宮廷とも因縁浅からぬ関係を持っている。たとえばモーツァルトの場合。ザルツブルクを辞し、ウィーンへやって来た彼は、ヨーゼフ2世の庇護を受けようと懸命だった。ヨーゼフの死後は、新皇帝となったレオポルト2世に取り入ろうとした。

あるいは、ドイツのボンからやって来たベートーヴェンである。彼のボン時代のパトロンは、ヨーゼフ2世の末弟であるマクシミリアン・フランツ侯爵であり、またウィーン時代の最大のパトロンは、皇帝フランツ1世の末弟のルドルフ大公だった。

音楽家志望の少年にとっても、ウィーンは魅力的だった。ハンガリー領（当時）に生まれたハイドンは、後の宮廷楽長に才能を見いだされ、幼くしてウィーンのシュテファン大聖堂聖歌隊メンバーとなる。ちなみにこちらはウィーンの生まれだが、少年シューベルトを宮廷合唱団に引き入れたのは、かの宮廷お抱えのイタリア人、サリエリだった。



ルドルフ大公

ダンス音楽の背景

19世紀前半のウィーンにおける宮廷と音楽との関わりを考える時、忘れられないのがワルツをはじめとするダンス音楽の興隆である。

当時のウィーンでは、一大イベントが開かれていた。フランス革命の余波を受けてナポレオンが登場し、ヨーロッパ中の君主国に戦争を仕掛けた挙句敗退を喫した後、ヨーロッパの再編を巡って催された「ウィーン会議」である。各国の意見が紛糾し、夜毎舞踏会をはじめとする宴会のみ活況を呈したことを揶揄して、「会議は踊る、されど進まず」のキャッチフレーズが生まれたことで有名だ。

舞踏会では、メヌエットに代表される旧来の宮廷舞踊と並んで、元々庶民の踊りであったワルツが踊られた。男女がびたりと体をつけあい転がるように踊るスタイルは、風紀を乱す下々の踊りとして禁止されたこともあったが、この頃になるとその魅力に貴族も抗しきれず、徐々に宮廷舞踏会にも取り入れられるようになった。

19世紀前半、この宮廷舞踏会の管弦楽団の音楽監督をつとめたのが、シュトラウス1世（後に2世もこのポストを手に入れる）である。それほどまでのダンス・ブームだったわけだが、そこには反ナポレオン＝反革命を掲げる当時の政治体制が影響していたことは否めない。保守反動的な為政者は、市民階級の政治的発言を固く禁止するいっぽう、そのガス抜きとしてワルツをはじめとするダンスや、演奏会やオペラを推奨したのである。市民を主体とした音楽愛好団体も続々と生まれ、その一つこそがウィーン楽友協会だった。

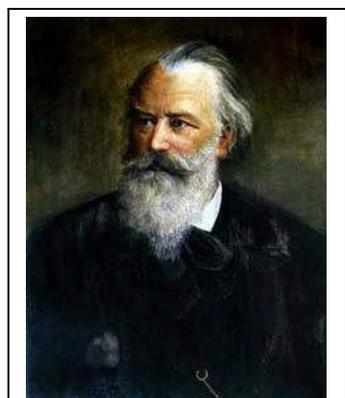


都市改造の時代

そんな保守反動の時代も終わりを告げる。1848年、市民の不満が爆発して革命が勃発し、新たな皇帝としてフランツ・ヨーゼフがその地位についた。

最初のうちこそ革命の炎を消し去るべく、戒厳令を敷くなど強硬姿勢でのぞんでいた新皇帝だったが、やがて市民の力を積極的に利用し、帝国の経済活性化を目指すようになる。そこで彼が下した決断とは、ウィーンを取り囲んでいた市壁を取り壊して環状道路を作り、周囲に官公庁や文化施設等々を建てることだった。

この都市改造により、現在のようなウィーンの中心街が誕生するわけだが、宮殿の右手には宮廷歌劇場をはじめ、豊かな市民が建てた音楽関係の建物が数多くお目見えすることとなった。例えばウィーン楽友協会、その向かいにはウィーンにやって来た著名音楽家たちの定宿であるインペリアル・ホテル。さらにその近くには、シュトラウス2世や、ブラームス、マーラーの住まいもあった。



ブラームス

そのブラームスだが、ウィーンに出てきてからの彼は、「ベートーヴェンの正統的後継者」という触れ込みで、ドイツ音楽をまっとうに継承する人物として讃えられた。またマーラーは「オペラ座のジークフリート」と呼ばれ、ワーグナーをはじめとするドイツ・オペラを理想的に上演できる優れた指揮者と評価された。何やらやたらに「ドイツ」という言葉が目につくが、それには相応の理由が存在したのである。

「ドイツ」の本場の矜持

古来「ドイツ」とは、現在のドイツ語圏を指す概念にすぎず、実際には大小の君主

文化シンポジウム『近代西洋史と音楽家たち』開催について

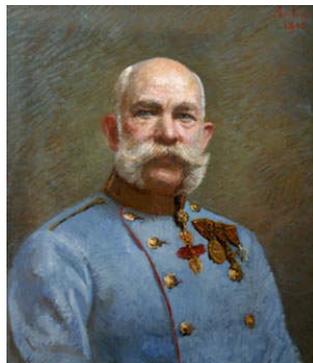
作曲：中島洋一

数年前から、このような文化シンポジウムの立ち上げを構想していたのですが、多くの方々のご協力を得て、ようやく5月16日（日）午後1時より、新宿文化センター和会議室において、第1回『ハプスブルク帝国と音楽家たち』を開催する運びとなりました。

第1回のメインパネラーは、ヨーロッパの文化史・ドイツ文学を研究分野とされ、特にハプスブルク帝国の文化・歴史について造詣の深い小宮正安氏にお願いしました。このシンポジウムは、当面は年2回開催程度のペースで、続けて行く予定です。

私が、専門分野の垣根を越えたサロンや研究会のようなものが開催出来たら面白いのに、と考えたのは、数年前、某会員のご自宅をお借りして何回か行った研究会がきっかけでした。10人程度の小規模な集まりでしたが、発表者、参加者の区別なく、誰でもザックバラに質問や、意見を言うことが出来る会で、自由な雰囲気の中でお互いに知的好奇心を刺激し合うことが出来る集まりでした。そして、芸術、歴史に関心を抱く若い世代の人達も集め、もっと規模を拡張し、研究会を開催してみようと考えようになりました。

もう一つ、このような研究会を開催してみたいと思うようになったキッカケは音楽大学勤務時代にありました。音大生は、例えばモーツァルト、ベートーヴェン、ヴェルディなど、西洋近代の作曲家たちが創造した音楽作品を一生懸命勉強するのですが、それを創り出した人たちがどのように生きていたか、そういう人たちが生きていた時代と社会がどのようなものだったのか、ということについて、あまり関心を示さないのです。楽聖と言われている人たちも、我々と同様に生身の人間であり、喜んだり、悲しんだり、怒ったりして生きていた筈です。そういうことを知ろうとしなくて、はたして血の通った熱い芸術が生み出せるものなのか、もっと広く好奇心を抱いて欲しい。という気持ちにさせられることがしばしばありました。



王妃：エリザベート／フランツ・ヨーゼフⅠ世

文化シンポジウムといっても、堅苦しい会ではなく、楽しい会にしたいと考えております。例えば、女性の参加者の多くは、女帝マリア・テレジアとその夫フランツ・シュテファンのこと、あるいは皇帝フランツ・ヨーゼフ1世とその妻エリザベートのことなど、男女の物語につついて強く関心を抱くかもしれません。しかし、そういう話題も下世話なものだとは思いません。王家

の男女の問題は、国家の浮き沈みとも大きく関係してくることがあるのです。

また、なぜベートーヴェンがナポレオンに憧れたか、ナポレオンが失脚したウィー

ン会議以後の時代に、ベートーヴェンはどのような想いを抱いて生きていたのかなど、想像力を働かせてみませんか。

西洋近代史というと、今の日本人には遠い世界のことのように思うかもしれませんが、決してそうではありません。例えばこんな物語もあります。フランツ・ヨーゼフの統治下にあった頃、オーストリアの貴族に嫁ぎ、黒髪の伯爵夫人と謂われた日本女性がいました。クーデンホーフ光子（旧姓、青山光子）です。

彼女の晩年、オーストリアは第一次世界大戦において、光子の母国である日本を含む連合軍と戦い敗れ、他のオーストリアの貴族とともに没落して行きます。しかし、彼女にはリヒャルト・ニコラウスという息子がおりました。正式な名前はリヒャルト・ニコラウス・栄次郎・クーデンホーフ＝カレルギーで、栄次郎という日本名を持っています。そして彼こそ、汎ヨーロッパ主義を提唱し、現在の欧州連合構想の先駆けとなった基本構想を生み出した人物なのです。そのため彼は「EUの父」と呼ばれています。



クーデンホーフ・光子

また、リヒャルト・ニコラウスより11歳年長ですが、彼と親交があり、リヒャルト・ニコラウスが唱えていた友愛思想に強い影響を受けた日本の政治家がいます。それが現総理大臣鳩山由紀夫の祖父で、1952年に総理大臣になった鳩山一郎でした。日本人の光子がウィーンに行きリヒャルトを生み、リヒャルトの友愛思想が現総理大臣に受け継がれている。人と歴史は、様々な糸でつながりあい、今の時代を紡いでいるのです。

そのような目で歴史・文化を見直してみると、今まで見えなかったものが見えて来て、気がつかなかったことに気がつくような気がしませんか。

どうぞ、このようなことに興味を抱く方は、ためらわずに、文化シンポジウムにご参加ください。

文化シンポジウム『近代西洋史と音楽家たち』第1回『ハプスブルク帝国と音楽家たち』
会場：新宿文化センター 和会議室
開催日時：2010年5月16日（日）13:00～17:00
メインパネラー：小宮正安（ヨーロッパ文化史）
パネラー：一ノ瀬俊和（イタリア文学）／北川暁子（ピアニスト）／北川靖子（ヴァイオリニスト）／清水康子（仏文学）／助川敏弥（作曲家）／深沢亮子（ピアニスト）
松岡新一郎（美術史&表象文化論）
コーディネーター&司会：中島洋一（作曲家）
参加費 一般：1000円／学生：700円
日本音楽舞踊会議 会員、賛助会員、研究員：500円

“Fresh Concert” - GMDJ 2010 -

～より豊かな音楽の未来をめざして～

2010年4月9日（金）

18:30 開演

すみだトリフォニーホール 小ホール

主催：日本音楽舞踊会議／月刊『音楽の世界』

《ごあいさつ》

いま我が国は、世界的な大不況の波をかぶり、若い音楽家たちにとって、それぞれの生活基盤を確保するだけでも困難な状況にあります。また、音楽文化の土壌を耕し、よりよい音楽文化環境の実現のため、月刊の機関誌発行、コンサート、研究会開催など、地道な活動を積み重ねてまいりました本会ですが、活動の継続自体が年々厳しくなって来ております。しかし、困難な経済、社会情勢のもとにあるからこそ、若い人達に無理なくステージに立てる場を提供し、若い才能を発掘、育成することも、長い歴史を持つ音楽文化団体として本会が果たすべき社会的、文化的使命の一つと考え、2003年度から毎年3月下旬～4月上旬に『Fresh concert』を企画してまいりましたが、本年度で第8回目を迎えます。

本年度は、16人の若い音楽家達を世に送り出しますが、伴奏者を含めると実に22人の方々が、今回のステージに立ちます。出演者は、音楽大学の大学院または大学を卒業した人達が中心ですが、現役の音大生も混じっており、それぞれの音楽的キャリアには多少の差があるものの、将来性豊かな人たちが多く存在し、参加者全員がこのコンサートを目指して研鑽に励んでまいりました。その成果は、熱意のこもった好演奏となって、聴衆の皆様方のお心に伝わって行くものと信じております。

昨今の厳しい環境のもと、音楽家として飛び立って行こうと懸命に努力している若い音楽家達を励まし、勇気づけるためにも、そして我が国の音楽状況を活性化させるためにも、皆様方の惜しみないご支援とご声援をお願いするとともに、これからの彼らの活躍を暖かく見守り続けていただきたいと思います。

日本音楽舞踊会議

代表理事

助川敏弥、深沢亮子

理事長

戸引小夜子

公演局長

北條直彦

コンサート実行委員長

中島洋一

コンサート実行委員

栗栖麻衣子

“Fresh Concert” — CMDJ 2010 —

～より豊かな音楽の未来をめざして～

岡田 真実 (ソプラノ) ピアノ伴奏：稲葉 千恵
 フォーレ 「リディア」作品4-2、「ネル」作品18-1、「薔薇」作品51-4
 G.Fauré "Lydia" Op.4-2, "Nell" Op.18-1, "La rose", Op.51-4

小林 萌里 (ピアノ) 半音階的幻想曲とフーガ 二短調 BWV 903
 バッハ J.S.Bach Chromatische Fantasie und Fuge d-moll BWV 903

大坪 由衣 (ソプラノ) ピアノ伴奏：山木 千絵
 モーツァルト 歌劇『ドンジョヴァンニ』より
 “ぶってよ、ぶって、いとしいマゼット”、“恋人よ、さあこの薬で”
 W.A.Mozart [Don Giovanni]～"Batti, batti, o bel Masetto", "Vedrai, carino"

宮下 咲恵 (ソプラノ) ピアノ伴奏：森田 真帆
 フォーレ 歌曲集『ある日の詩』 作品 21
 1.めぐり逢い、2.いつまでも、3.さようなら
 G.Fauré 『Poème d'un jour』 Op.21 1.Rencontre 2.Toujour 3.Adieu

恵藤 幸子 (ピアノ) 『夜のガスパール』より 「オンディーヌ」
 ラヴェル M.Ravel 『Gaspard de la nuit d-moll』～ [Ondine]

秋山 来実 (ソプラノ) ピアノ伴奏：稲葉 千恵
 フォーレ “月の光” 作品 46-2、“歌う妖精” 作品 27-2
 G.Fauré “Clair de lune” Op.46-2, “Le fée aux chansons” Op.27-2

----- 休憩 -----

角 雅晃 (Tp.) / 伊藤 緑 (Tp.) / 齋藤 嵩之 (Horn) / 永山 千尋 (Tb.) / 三木 博士 (Tuba)
 《金管 5 重奏》 「フロストファイア」
 エワイゼン E. Ewazen : [FROST FIRE]

清野 友香莉 (ソプラノ) ピアノ伴奏：藤川 志保
 R・シュトラウス 歌劇『ナクソス島のアリアドネ』より 「偉大なる王女様」
 R.Strauss 「Großmächtige Prinzessin」 from 《Ariadne auf Naxos》

秀川 みずえ (ヴァイオリン) / 鈴木 菜穂子 (ピアノ)
 グリーク ヴァイオリンソナタ 3 番 ハ短調 作品 45 より 2、3 楽章
 E. Grieg Violin Sonata No.3 (c-moll op.45) ～ 2、3mov.

大久保 雅代 (ソプラノ) ピアノ伴奏：白取 晃司
 ヴェルディ 歌劇『リゴレット』より “麗しき御名”
 G.Verdi [Rigoletto] ～"Caro nome che il mio cor"

村松 恒矢 (バリトン) ピアノ伴奏：中澤 頼子
 モーツァルト 歌劇『ドンジョヴァンニ』より “酒で頭が熱くなるまで”
 W.A.Mozart [Don Giovanni] "Fin ch'han dal vino"
 モーツァルト 歌劇『フィガロの結婚より』より “もう訴訟に勝ただと?”
 W.A.Mozart [Le nozze di Figaro]～"Hai gia vinta la causa"

司会：西山 淑子

2010年4月9日 (金) 18:30 開演 (18:00)

すみだトリフォニーホール 小ホール
 主催：日本音楽舞踊会議 / 月刊『音楽の世界』
 入場料金：2500円 (全自由)

日本音楽舞踊会議 (The Conference of Music and Dance, Japan)
 〒169-0075 新宿区高田馬場 4-1-6 寿美ビル 305号
 Tel.&FAX : 03-3369-7496
 ホームページ : <http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai>
 電子メール : onbukai@mua.biglobe.ne.jp



開場

[6. 貴方の魅力はどんなところだと思いますか?] に対しては、控えめながら、ユニークな回答が多く、面白く読めました。ここに書いた感想は、私がざっと読んで感じたもので、各々の読者の方々は、それぞれ違った感じ方をし、違ったものを発見すると思います。

芸術、人生について真剣に考えようとしている16人の若者達が、それぞれ答えてくれたのですから、押しつけがましいかもしれませんが、私も餞（はなむけ）に一言云わせてもらいます。まだ、みなさんは若いのですから、これから色々な事を経験すると思います。しかし、出来るだけ降りかかった火の粉を払わずに、不器用に生きて行って欲しいと思います。優れた芸術を生み出す人は、どこか人並み外れて不器用なところを持つものです。繊細すぎる感性、鋭い知性、誠実すぎる性格、そのようなものも、その人の生き方により大きな困難をもたらします。自分の魅力について、「折れそうでおれないところ」、「反骨心」などと答えた人がいましたが、そういうものを守り続けながら生きて欲しいと思います。

それでは、出演者のみなさんの回答を、演奏順に紹介させていただきます。

(栗栖麻衣子／中島洋一〈文責〉)



① 岡田 真実 (ソプラノ)

1. このような貴重なステージで演奏する機会を頂けたことに、心から感謝申し上げます。本日はその喜びを胸に、心を込めて演奏します。
2. 幼い頃から音楽が好きで、人前で歌ったり、ピアノで「水戸黄門」を弾いたりしていました！大きなきっかけは高校時代だと思います。
3. 私の細胞の一部です。
4. フランスの作品をもっと学びたいです！
5. 疑問、怒りというより…世の中にありふれているもの、考え…色々なものが不思議で、面白く、謎だと感じます。
6. 大きな自然に囲まれて、のびのびと育っています…！



② 小林 萌里 (ピアノ)

1. 今回初めてフレッシュコンサートに参加させていただきます。このような素敵なコンサートに参加できることを心から嬉しく思っています。コンサートで素敵な演奏ができるよう、そして J.S.バッハは私の好きな作曲家のひとりなので、さまざまな方向から沢山の情報を得て、より深く曲のことを知って演奏したいと思っています。まだまだ勉強中の身ですが、まわりの人々への感謝の気持ちを忘れずに、楽しんで演奏できたらいいなと思っています。
2. 気がついたら音楽をやっていました。
3. 自分をいちばん表現できるもの。
4. フランス音楽、Jazz、民族音楽。
5. 戦争など恐ろしい出来事が同じ地球上で現実起きていて、それによって多くの人々が苦しんでいること。

6. 天性の明るさ！！



③ 大坪 由衣 (ソプラノ)

1. フレッシュコンサートに出演できることを大変嬉しく思うと共に、このような機会を与えてくださり、とても感謝しております。
今回、大好きなツェルリーナのアリアを歌わせて頂きます。ツェルリーナのコケティッシュな魅力が伝わると嬉しいです。

2. 幼い頃にミュージカルを観て感動したのがきっかけです。
3. 難解な芸術作品です。
4. マラルメやボードレルの詩を自分なりに解釈して演奏してみたいです。
5. 詩や本をよんでいても、インスピレーションがわからないときに自分に憤りを感じます。
6. 調子の良いところ、いつでも健康なところ です。



④ 宮下 咲恵 (ソプラノ)

1. この度は、フレッシュコンサートで歌わせていただく機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。

今回歌わせていただく曲は、多くの素晴らしいフランス歌曲を世に残した G・フォーレの中期作品、『ある日の詩』をお届けいたします。この曲は彼にとっての初めての連作歌曲の作品であり、「出会い」、「永遠に」、「別れ」の3曲から成る、言うまでもなく『愛』をテーマにした曲です。一曲目は、平凡な生活から突如として現れた理想の人との出会いによる喜び、二曲目は、思いがけない裏切りからくる苦悩。そして三曲目は、前曲の悲しみや怒りを超越してしまった無常観、愛の儚さを表現したいです。

フレッシュコンサートを私の新たな出発地点とさせていただき、数多くの美しいフランス歌曲がもっと日本で普及していくために、それを研究し歌い続けていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

2. 歌の恩師との出会いが音楽の道へ進むきっかけとなりました。
3. 私自身を表現する上でかけがえのないものです。
4. ドビュッシーの歌曲作品の研究
5. 個人の価値観の尊重と、グローバル化された現代社会のコミュニケーションの難しさ。また、DV (domestic violence)。ペットのブランド化、虐待、飼育放棄問題などの意識レベルの低さ。
6. 天真爛漫

⑤ 恵藤 幸子 (ピアノ)

1. 今回のコンサートへの抱負、演奏する曲に対する思いなどを込めたメッセージをお願い



します。今回、弾かせていただくラヴェルの『オンディーヌ』を弾くことになったきっかけは、大学院の教授から言われた「君、ラヴェルあんまりむいてないんじゃない？」の一言からでした。ラヴェルを弾いた経験があまりなかったからかもしれませんが、私はラヴェルが好きなので、正直に「ラヴェルの曲は好きです！」と言ったら、教授からこの『夜のガスパール』をいただきました。聴いたことがあるだけで、私には弾けないだろうと思っていたので、興奮してすぐに譜読みにとりかかったのを覚えています。技術的にも、今まで弾いたことのない感触なので、今回のコンサートで、新たなヒントを得られることを期待しています。

2. 私が生まれる前から、ピアノが先に家にあったので、いつのまにかピアノを弾いていました。
3. 人生。最初は空気のようなものだと思っていましたが、どうも違ったようです。
4. スペインものをまだやった事がないので、やってみたいです。
5. 電車の中での大音量のヘッドホン、路上喫煙。
6. 折れそうで折れないところ。明るいところ。



⑥ 秋山 来実 (ソプラノ)

1. 今まで私を支え応援してくださった家族、共に学んできた友人・先輩・後輩、そして、そして！！ここまで6年間ご指導くださった秋山先生…、本当にありがとうございます！！みなさんに感謝の気持ちを込めて演奏したいと思います。
2. 幼稚園からお世話になっているピアノ & 合唱の先生から音楽科という学科の存在を知ったからです。
3. 光輝く未知の世界。
4. 大学院ではフォーレの作品を中心に勉強してきたので、他の作曲家のフランス歌曲も勉強してみたいです。
5. 3月なのに雪が降ったこと！5年ぶりしもやけが出来たこと！
雪は好きだけど寒いのはニガテです。
6. 身長が小さいこと！
人見知りが激しいと思っているのに、人からはそう思われないこと！

⑦ くにたち・プラス5 (金管五重奏団)

角 雅晃 (Tp.) / 伊藤 緑 (Tp.) / 齋藤 嵩之 (Horn) / 永山 千尋 (Tb.) / 三木 博士 (Tuba)

1. 大学で学んだことを活かして演奏します。(角)
2. 両親が音楽好きだった影響も強いと思いますが、中学の時に入った吹奏楽部がきっかけです。(角)、ホルンになったのはたまたま音が出たからです。(齋藤)
中学生のときの吹奏楽部。(三木)

3. 小さいころからずっと身近にあるものなので、ジャンルに関係なく自分になくなくてはならないものです。(齋藤)



左より角雅晃(Tp.)／齋藤嵩之(Hor.)／三木博士(Tuba)／永山千尋(Tb.)／伊藤緑(Tp.)

4. 1980年代のアメリカの作曲家。(三木)
5. どうすれば立ち姿が美しくみえるか(永山)、電車内でマナーを守らない人(永山)
6. 反骨心(三木)



⑧ 清野 友香莉 (ソプラノ)

1. この度は、フレッシュコンサート 2010 に出演させていただけて、とても光栄に思っております。この場をお借りしまして、感謝を申し上げます。

今回歌わせていただく R.シュトラウスの曲は、私にとって運命的な曲で、こういった公の場所でこの歌を演奏できることを本当に嬉しく思います。

この曲と出会ったのは大学院1年生の頃でした。「超絶技巧」という名に相応しい、とても難易度の高い、そして最高音も高いこの曲を耳にした時に、最初は驚きはしたものの、徐々に「この曲を歌えるようになりたい」と強く思いました。技巧的なだけでなく、いかに音楽的表現を豊かにできるか、それを課題としてこれまで勉強してまいりました。その成果をコンサート当日に出せるよう、最高の演奏ができるよう、がんばります。たくさんのお客様と会場でお会い出来ることを、心より楽しみにしております！

2. 国立音楽大学附属小学校に入学したことでしょいか。途中何度か、音楽から離れようと思ったことはありましたが、歌に出会って、そして大学に入ってから、プロを目指すことを意識し始めました。

3. 多大なる苦しみ、悩みを与えるものであり、大きな感動、喜びを与えてくれるもの。

4. R.シュトラウスの作品は、私の重要なレパートリーですので、今後も勉強したいと

思っております。そして、Hamlet の Ophélie が大好きなので、挑戦してみたい役ですね。

5. やはり、事業仕分けによって、文化の繁栄が減速してしまうことでしょうか。私たち西洋の文化を学んできたものにとって、日本でそれを演奏し、伝え広めることは難しいものなのでしょうか・・・。

6. ポジティブなところですかね？

⑨ 秀川 みずえ (ヴァイオリン) / 鈴木 菜穂子 (ピアノ)



秀川みずえ



鈴木菜穂子

1. 今回の演奏会は声楽の方々の素晴らしい演奏が主だと思いますが、合間に弦楽器とピアノによる室内楽もお楽しみいただければと思います。この曲は北欧のショパンとも評されるグリーグの3つのヴァイオリン・ソナタの中で最も有名な曲です。分かりやすい様式で書かれていて、尚且つメロディーやリズムパターンなどはノルウェーの民族音楽の影響が強く感じられます。皆様

にはぜひ2楽章の感動的な旋律と中間部分のモリスダンス、続く3楽章のヴァイオリンとピアノの絶妙なかけ合いを楽しんでいただきたいと思います。演奏者二人にとっては、スイスの講習会で勉強した思い出の曲です。久々に合わせてみてやはり大好きな曲だと改めて感じました。聞いて下さる皆様にも感動が伝わりますように。(鈴木)

2. 音楽を聞くのも弾くのも語り合うのも全て好きだから。(鈴木)

ヴァイオリンを続けようか悩んでいた時に、通っていた音楽教室で出会ったオーケストラで演奏するのが物凄く楽しかったから。(秀川)

3. なくなっては困るもの。真髓を掴むのが難しい反面恐ろしく優しいもの。(鈴木)

人生の全て。生活する上で欠かせないもの。(秀川)

4. 誰も弾いた事がない曲。また各国の国歌が入っている曲を探して演奏会をしてみたいです。(鈴木)

鈴木さんとのデュオをはじめ、色々な楽器との室内楽曲をたくさん勉強したい。(秀川)

5. 自己顕示欲や金に固執する政治家達、アスリートに対して重圧報道を繰り返すマスコミの行動に、疑問や怒りを感じます。(鈴木)

子供に注意する仕方の分からない大人。(秀川)

6. 例えば短期集中による結実度の高さ…とか。誰も理解されない事に夢中になる奇妙な所…とか。(鈴木)

待ち合わせ時間を過ぎても、いくらでも待ってられる気の長さ。(秀川)

7. 秀川さん、これからもよろしくお願いします。(鈴木)

鈴木さん、これからもよろしくお願いします。(秀川)



⑩ 大久保 雅代 (ソプラノ)

1. フレッシュコンサートへ出演させていただけること、本当に有難く、幸せに思っております。『caro nome』で描かれるのは少女ジルダの初恋ですが、とどまるところを知らない乙女心を、フレッシュに(!)表現することが目標です。伴奏の白取さん、そしてヴェルディの音楽の力をお借りして、がんばります。

2. 中学時代に『音楽クラブ』に所属し、聖歌やミュージカルナンバーを勉強したのを機に、歌うことでもっと自分を表現したいと思うようになりました。
3. 水の中のお魚。追いかけて回しても全然つかまえません。早くおいしく食べたいのにと、じりじりしてしまいます。
4. 日本歌曲の勉強をしたいです。広汎なよい例が思いつきませんが、感情を表すときの言葉の選び方や季節や色彩に対する繊細な感性など、『日本ならではの美しいもの』に心惹かれます。
5. 先ごろの冬季五輪で、スピードスケートの長島選手がスタート前に長時間待たされてしまいレースで実力を発揮できなかったことが本当にお気の毒でした。なぜすぐに詳細な原因説明がされなかったのだろうと思います。
6. 魅力と言いますか、私が自慢できることは、魅力的で素敵な方が身近にたくさんいて下さることです。



⑪ 村松 恒矢 (バリトン)

1. 自分の成果を発表出来る機会は少ない上に、今年3月で大学を卒業するので、今回出演させていただくことは貴重な体験であり、またとても感謝しています。大学では、歌はただ音を歌うのではなく、言葉を理解し、しっかり伝えることを学んできました。その学んできたことを、今回は一番勉強したモーツァルトの曲で表現したいと思います。自分の

- 歌を聞いて、何かを感じていただけたら幸いです。
2. 音楽が盛んな中学校で歌う楽しさを知り、高校の合唱部で、音楽大学に通っている・または卒業してクラシック界で活躍されているOB・OGの先輩方の影響です。
 3. 目に見えないものを伝えてくれるものだと思います。また自分を映す鏡でもあると思います。
 4. ロッシーニ (Gioachino Rossini) の作品、特に「セヴィリアの理髪師」に挑戦したいです。
 5. 商品一つだけの買い物で、「袋に入れますか?」と声かけしないコンビニの店員と、言う機会を失うと「いらないです。」と言い切れない、流れに任せてしまう日本人のダメなところをもつ自分が嫌です。地球のために成長します。
 6. 父の受売りですが、生涯成長し続けることをモットーとして生きていること。また、今を生きる人々だけではなく、先祖が渡してくれた命のバトンや、さらにそれをどう未来へ繋げるかを考えているところです。

◆過去開催の Fresh Concert 演奏者&演奏曲目◆

《第1回 (2003年3月19日 (水): 新宿角筈区民センターホール》

司会: 西山淑子

岩槻 佳枝 (ピアノ)

リスト 『バラード 第2番』

F.Liszt 2 me Ballade

吉松 亜衣 (ソプラノ)

ピアノ 金益 研二

ベッリーニ オペラ『夢遊病の女』より “気もはればれと”

V.Bellini [La Sonnambula] ~ “Come per me sereno”

松浦 豊彦 (バリトン)

ピアノ 真田 千絵

シューベルト **F. Schubert**

“さすらい人が月に寄せて” Der Wanderer an der Mond D.870

“羊飼いの嘆きの歌” Schäfers Klagelied D121

“星はなんと明るく” Die Sterne D.939

湯原 拓哉 (チェロ)

ピアノ 澤田 友子

1. ポッパー 『40の練習曲』より第17番 ハ長調 作品 73-17

D.Popper "40 Studies" No.17 in C major op.73-17

2. チャイコフスキー 『夜想曲』 作品 19

P.Tchaikovsky "Nocturne" op.19

3. ボッケリーニ ソナタ 第6番 イ長調 第1.2楽章

L.Boccherini "Sonata for Cello and Piano" NO.6 in A major move.1,2.

植田 さや香 (ピアノ)

スクリャービン **A.N. Scriabin**

1. 『3つのプレリュード』 作品 37-1、作品 51-2、作品 59-2

"3 Preludes" Op.37, No.1, Op.51, No.2, Op.59, No.2

2. ピアノ・ソナタ 第9番 『黒ミサ』 作品 68

Sonata No.9, "Black Mass" Op.68

岩間 俊恵 (ピアノ)

メトネル **N. Medtner**

<忘れられた調べ>第1集 作品 38より 第1番『追憶のソナタ』イ短調

from "Forgotten Tunes" Cycle Op.38 "Reminiscence Sonata" a minor

高波 亜由実 (ソプラノ)

ピアノ 田子 篤子

1. ベッリーニ “熱き願い”

V.Bellini Il Fervido Desiderio

2. ベッリーニ “優しい妖精、マリンコニーアよ”

V.Bellini Malinconia, ninfa Gentile

3. ドニゼッティ オペラ 「シャーモニーのリンダ」より “この心の光”

G.Donizetti 「Linda di Chamounix」 ~ ” O luce di quest'anima”

戸田 竜太郎 (クラリネット) / 山口 有希子 (ピアノ)

ブラームス **J.Brahms**

ピアノとクラリネットのためのソナタ 作品120-2

Sonata für Klavier und Klarinette Op.120 Nr.2

小道 一代 (メゾ・ソプラノ)

ピアノ 岸 洋子

コープランド 『古いアメリカの歌』より

A.Copland “Old American Songs” ~

遠い昔 Long Time Ago

小さな馬 The Little Horses

ザイオンの壁 Zion's Walls

川のほとり At the River

《第2回（2004年4月6日（火）：めぐろパーシモンホール（小）》

司会：西山淑子

高橋 絵里（ピアノ）

ショパン ソナタ ロ短調 作品 58 より、第1、第4楽章
F.Chopin Sonata in b-minor op.58 ~ 1mov. and 4 mov.

鈴木 文（ソプラノ）

ピアノ 松本 智恵
ベッリーニ オペラ『夢遊病の女』より “私にとって今日は何と素晴らしい日”
V.Bellini [La Sonnambula] ~ “Come per me sereno oggi”

相澤 沙代（ピアノ）

プロコフィエフ ソナタ第7番 作品 83
S.Prokofiev Sonata no.7 Op.83

金子 直美（ソプラノ）

ピアノ 青木いづみ
マスカーニ 『アヴェ・マリア』
P.Masukagni “Ave Maria”
ドヴォルザーク オペラ『ルサルカ』より “月に寄せる歌” 他
A.Dvorák [Rusalka] ~ “Piesen rusalky o Mesicku”

植田 さや香（ピアノ）

1. 浅香 満 バラード
M.Asaka B a llade
2. スクリャービン ソナタ第4番 作品 30
A.N. Scriabin Sonata No.4 Op.30

神尾 弥（打楽器）

向井 耕平 「前奏曲とアレグロ」 ～マリンバのための 作品 19
K.Mukai Prelude and Allegro for marimba Op.19

北川 葉子（ピアノ）

ラフマニノフ コレルリの主題による変奏曲 Op.42
S.Rakhmaninov Variations on a theme of Corelli Op.42

矢数 典子（ソプラノ）

ピアノ 藤川 志保
モーツァルト オペラ『フィガロの結婚』より
「スザンナは来ないかしら」～「楽しい思い出はどこへ」
W.A.Mozart [La Nozze di Figaro] ~
“E Susanna non vien!” ~ “Dove sono i bei momenti”

ユリヤ・スメタンキナ “Yuliya Smetankina”（フルート）

アウラ・ヴァージニア・ポペスク “Aura Virginia Popesku”（ヴァイオリン）植田 さや香（ピアノ）
ブラームス .ハンガリア舞曲 第1番、第5
～フルートとヴァイオリンの二重奏（ピアノ付）
J.Brahms .Hungarian Dance No.1 and No.5
～ Arranged for Flute, Violin and Piano

《第3回（2005年3月30日（水）：めぐろパーシモンホール（小）》

司会：西山淑子

秋山 有子（ピアノ）

L.V.ベートーヴェン ピアノソナタ op.81-a “告別”

L.V.Beethoven Klavier Sonate op.81-a “Das Lebewohl”

谷坂 仁美（ピアノ）

S.ラフマニノフのプレリュード Op23 - 2、23 - 4、23 - 5、32 - 5

S.Rakhmaninov Prelude Op.23-2,23-4, 23-5, 32-5

高橋 絵理（ソプラノ）

ピアノ伴奏 山下珠実

G ロッシーニ 「ウイリアム・テル」

～彼らはとうとう行ってしまった！～暗い森、荒れ果てた悲しい野よ～

G.Rossini 「Guglielmo Tell」

～ S'allontanano alfine ! - Selva opaca,deserta brughiera ～

加藤 みちる（ピアノ）

S.ラフマニノフ コレルリの主題による変奏曲 op.42

S.Rakhmaninov Variations on a Teme of Corelli op.42

高原 史乃（ソプラノ）

ピアノ伴奏 山下珠実

ロッシーニ 古風なアリエッタ

G.Rossini Arietta all' antica

ヴェルディ 歌劇「海賊」より

～まだ彼は帰ってこない！...私の頭から暗い考えを～

G.Verdi Opera 「Il Corsaro」

～ Egli non riede ancora!...Non so le tetre immagini ～

----- 休憩 -----

久保 智美（オンド・マルトノ）

ロラン クルーズ オンド・マルトノ ソロの為の ”アルス...”（日本初演）

Roland Creuze ” ALS...” pour Ondes Martenot solo

朴 成姚（ピアノ）

L.V.ベートーヴェン 15の変奏曲とフーガ（エロイカ変奏曲）

L.V.Beethoven 15 Variationen mit Fuge, Es-Dur ,Op.35

折田 いづみ（メゾ・ソプラノ）

ピアノ伴奏 山下珠実

G ビゼー・歌劇「カルメン」より『セギディーリャ』

G. Bizet Carmen “Seguidilla”

C.サン＝サーンス 歌劇「サムソンとデリラ」より『愛の神よ、弱い私を助けて！』

C.Saint-Saens [Samson et Dalila] “Amour! Viens aider ma faiblesse!”

富田 紀子（ピアノ）

C.ドビュッシー： 前奏曲第2集より 1 1. 交代する3度 1 2. 花火

C.Debussy : [Preludes 2e live] 11.Les tierces alternees, 12.Feux

佐藤 大介（ピアノ）

R.シューマン 幻想曲ハ長調 作品17より第1楽章

R.Schumann Fantasie C-dur Op.17 ~ 1.Satz

《第4回》2006年3月28日(火)：めぐろパーシモンホール(小)》

司会：西山淑子

小俣 優衣 (ピアノ)

ラフマニノフ ソナタ 第2番 変ロ短調 作品36

S.V.Rakhmaninov Sonata No.2 Bb minor Op.36

佐野 友美 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 山下 珠実

ヴェルディ 歌劇「椿姫」より “ああ、そはかの人か～花から花へ”

G.Verdi Opera 「La Traviata」 "Ah! fors'è lui … Sempre libera"

内田 陽子 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 花井 梨江

モーツァルト 演奏会用アリア『わが感謝を受けたまえ、やさしい保護者よ!』

W.A.Mozart Konzert Aria “Nehmt minen Dank, ihr holden Gonner”

歌劇『魔笛』より “恐れるな、私のかわいい若者よ”

Opera 「Die Zauberflöte」 “O zittre nicht, meinrn lieber Sohn”

本間 太郎 (ピアノ)

ヒナステラ ピアノソナタ 第1番

A.Ginastera Piano Sonata No.1

知念 祥子 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 山下珠実

プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」より “ある晴れた日に”

G.Puccini Opera 「Madama Butterfly」 “Un bel di vedremo”

井出 舜太郎 (チェロ)

ピアノ伴奏 鈴木慎崇

サン・サーンス チェロコンチェルト第1番 op.33 第三楽章

Saint Saens Cello Concert a-minor Op.33 3d. mov.

----- 休憩 -----

村上 貴子 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 山下 珠実

モーツァルト 歌劇『魔笛』より “地獄の復讐が私の心の中に”

W.A.Mozart Opera 「Die Zauberflöte」 "Der Hölle Rache Kocht in meinem Herzen"

プッチーニ 歌劇「つばめ」より “ドレッタの素敵な夢”

G.Puccini Opera 「La Rondine」 "Chi il bel sogno di Doretta"

下川 慶子 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 山下珠実

ヴェルディ 歌劇『運命の力』より “神よ平和を与えたまえ”

G.Verdi Opera 「La forza del destino」 "Pace, pace mio dio"

歌劇『仮面舞踏会』より “私は死にます、でもその前に”

「Un ballo in maschera」 "Morro ma prima in grazia"

大矢 絢子 (ピアノ)

ショパン 「幻想ポロネーズ」 変イ長調 op.61

F.Chopin Polonaise-fantasia As-dur op.61

小椋 由加里 (ソプラノ)

ピアノ伴奏 花井 梨江

山田耕筰 「AIYANの歌」より “曼珠沙華”

ロッシーニ 歌劇「セビリヤの理髪師」より “今の歌声”

G.Rossini Opera 「Barbiere Di Siviglia」～ “Vna Voce poco fa”

相山 潤平 (テノール)

ピアノ伴奏 合田由佳

トスティ “セレナータ”

F.P.Tosti "La serenata"

ヴェルディ 歌劇『仮面舞踏会』より “永久に君を失えば”

G.Verdi Opera 「Un ballo in maschera」 “Ma se m' e forza perderti”

《第5回》2007年4月6日(金):すみだトリフォニーホール(小)

司会:西山淑子

元田 絢子/西野 杏梨(ピアノ連弾)

ドヴォルザーク スラブ舞曲 No.8作品46-8/No.10 作品72-10/No.15 作品72-15
Dvorak Slavac Dance No.8 op.46-8/No.10 op.72-10/No.15 op.72-15

武田 麻衣(ソプラノ)

ピアノ伴奏:森田真帆

マスネ “君の青い目を開けなさい”
歌劇《マノン》から “さようなら、私たちの小さなテーブルよ”
Massenet “Ouvre tes yeux bleus” / 《Mannon》 ~ “Adieu, notre petite table”

湯川 亜也子(メゾ・ソプラノ)

ピアノ伴奏:森田真帆

フォーレ 歌曲「ある日の詩」
G. Fauré “Poeme d'un jour (Rencontre / Toujours / Adieu)”

恵藤 幸子(ピアノ)

バッハ トッカータ 木短調
J. S. Bach Toccata e-moll BWV914 No.2
ショパン 練習曲 作品15-5 変ト長調 「黒鍵」
Chopin Etude Op.15-5 Ges-Dur 「Black key」
プロコフィエフ ピアノソナタ 第2番 作品14第二楽章
Prokofiev Piano Sonata No.2 Op.14 (2nd mov.)

宮川 雅衣(ソプラノ)

ピアノ伴奏:森田真帆

トスティ 安らぎを返させたまえ
Tosti “Ridonami la calma”
モーツァルト 歌劇《イドメネオ》より “もし私が父上を失い”
Mozart 《Idomeneo》 ~ “Se il padre per dei”

花田 愛(ソプラノ)

ピアノ伴奏:森田真帆

ドビュッシー グリーン/「放蕩息子」よりアザエル!なぜお前は去っていったの?
Debussy Green / L'enfant prodigue ~ “Azaël! Pourquoi m'as-tu quittée?”

----- 休憩 -----

横山さやか(P)/神原あゆみ(P)/高橋英樹(Per.)/鈴木紋香(Per.)

バルトーク 2台のピアノと打楽器のためのソナタ(第2,3楽章)
Bartok Sonata for two pianos and percussion

島田 祐子(ソプラノ)

ピアノ伴奏:神原あゆみ

レスピーキ 《森の伝説》より “牧神たち” / “エグレ” / “黄昏”
Respighi «Deita silvanca» ~ “IFAUNI” / “EGLE” / “CREPUSCOLO”

神田 麻衣(ピアノ)

ショパン バラード 第4番 へ短調 作品52
Chopin Ballade No.4 f-minor Op.52

金澤 梨恵子(ソプラノ)

ピアノ伴奏:山下知里

グノー “おいで!芝生は緑だ!” / 歌劇『ファウスト』より “宝石の歌”
Gounod “Viens! Les gazons sont verts!” / 《Faust》 ~ “Air des bijoux”

太田 智子(ソプラノ)

ピアノ伴奏:山下知里

ラフマニノフ “夢” 作品8-5 “彼女達は答えた” 作品21-4
Rakhmaninov “Dream” Op.8-5 / “They answered” Op.21-4
ドヴォルザーク 歌劇《ルサルカ》より “月に寄せる歌”
Dvorak 《Rusalka》 ~ “Piesen rusalky o Mesicku”

《第6回》2008年4月5日(土)：すみだトリフォニーホール(小)

司会：西山淑子

- 坪野 智子 (ソプラノ) ピアノ伴奏：森田 真帆
 フォーレ 「五月」作品1-2、「リディア」作品4-2、「愛の唄」作品27-1
 G.Fauré "Mai" Op.1-2, "Lydia" Op.4-2, "Chanson d'Amour", Op.27-1
- 福田 将史／原田 佳菜子 (フルート二重奏) ピアノ伴奏：高橋 亜侑実
 モーツァルト ソナタ 二長調 KV.448 (2台のピアノのためのソナタからの編曲)
 W.A.Mozart Sonata D-Dur KV.4484
- 小林 由香 (ソプラノ) ピアノ伴奏：森田 真帆
 ベルリオーズ 「夏の夜」作品7より 6..知られざる島
 H.Berlioz [Les nuits d'ete] op.7 ~ "Lile inconnue"
 プーランク 「歌の調べ」より 3.重々しい歌、4.快活な歌
 F. Poulenc [Airs chantets] ~ Air grave, Air vif
- 上埜 マユミ (ピアノ)
 リスト ハンガリア狂詩曲 第12番 嬰ハ短調
 F.Liszt Hungarian Rhapsodies No.12 C# minor
- 増田 浩子 (ソプラノ) ピアノ伴奏：森田 真帆
 フォーレ 「5つのヴェネチアの歌」より “ひそやかに”
 G.Fauré [5Mélodies de Venise] ~ "En sourdine"
 C.ドビュッシー 「2つのロマンス」より 1.そぞろな悩める心、2.鐘
 C. Debussy [2 Romances] "L'âme évaporée et souffrante", "Les cloches"
- 休憩 -----
- 元田 絢子／西野 杏梨 (ピアノ連弾)
 グリーク 「ペールギュント組曲」 第1集 作品46
 E.Grieg [Peer Gynt-Suite1] Op.46
- 兼子 知恵 (ソプラノ) ピアノ伴奏：坂田 優子
 アルディーティ “口づけ”
 L.Ardit "Il bacio"
 ヴェルディ 歌劇『リゴレット』より “麗しき御名”
 G.Verdi [Rigoletto] ~ "Caro nome che il mio cor"
- 川田 修一 (トランペット) ピアノ伴奏：藤田 朗子
 ヒンデミット トランペットとピアノの為のソナタ
 P.Hindemith Sonate für Torompete und Klavier
- 齋藤 希絵 (ソプラノ) ピアノ伴奏：森田真帆
 トマ 歌劇『ハムレット』より “オフィリアの狂気のシェーナとアリア”
 A.Thomas 《Hamlet》 ~ "Scène et air et air de la folie d' Ophélie"
- 古川 詠子 (ソプラノ) ピアノ伴奏：石川 美也子
 ミルヴェデン 愛の歌
 I.Milveden Kärlekens visa
 ニールセン リンゴの花びら (歌曲作品10)
 C. Nielsen Æbleblomst (Sange, op.10)
 ランゲミュッラ ホアナの第一の歌 (「スペインの学生たち」より 作品22-4)
 P.E. Lange-Müller Juanas Første Sæng (Af Operaen "Spanske Studenter" Op22. No.4)
 ホアナの第二の歌 (「スペインの学生たち」より 作品22-5)
 Joanas Anden Sæng (Af Operaen "Spanske Studenter" Op22. No.5)
 ステンハンマー 森で
 W.Stenhammar I Skogen

《4月～9月の日本音楽舞踊会議関係のコンサート情報》

日本音楽舞踊会議本会および、会員のコンサート情報です。

【4月】

9日(金) ★ Fresh Concert CMDJ2010 すみだトリフォニー小ホール 18:30～

10日(土) 深沢亮子－天満敦子さんとのジョイント・コンサート

【習志野文化ホール(予定)】

18日(日) ピアノ部会試演会 【新井宅 10:00～12:00】

24日(土) 上野優子－日本ショパン協会第252回例会 上野優子ピアノリサイタル ショパン：エュード Op.10 ほか

【カワイ表参道コンサートサロンパウゼ 19:00～ 一般3,000円】

28日(水) 深沢亮子【つくば市 小林誠先生記念ホールオープニングコンサート 18:00～】

【5月】

9日(日) ★作曲部会公演 『ソロと室内楽への誘い』 ～風薫る5月に～

【すみだトリフォニー小ホール】 15:30～

日本音楽舞踊会議 作曲部会公演

ソロと室内楽へのお誘い ～風薫る5月に～

小平 時之助

バイオリンとピアノのための詩曲Ⅰ・Ⅱ

北川靖子(Vn.) / 東山洸雅(Pf)

大和 實

大和ミエ子童謡集「さくら さくら」より

1.こぶしの花 2.冬の鳥 3.榛名讃歌

湯川亜也子(M-Sop.) / 森田真帆(Pf)

穴原 雅己

ピアノのための3つの小品

1.プレリュード 2.楽興の時 3.バガテル

浜尾夕美(Pf)

高橋 通

5月の青い風

前沢祐輔(Ob.) / 刈込佐奈恵(Ob&E.H.) / 高橋健(Fag.) / 高橋澄子(箏)



ロクリアン・正岡

組曲「鍵盤の上を歩く四足のは虫類」－ピアノデュオによる改訂初演－

瀬川由馬(Pf.p) / 野口裕紀(Pf.)

高橋 雅光

高橋一仁の童謡詩によるうた

1.ちちばばのおほか 2.ゆうえんちのすなば 他

浦富美(Sop.) / 坂田晴美(Pf)

浅香 満

ビオラとピアノのための夜想曲 / ビオラとピアノのためのソナタ

岡さおり(Vla.) / 上田さや香(Pf)

桑原 洋明

道行蝶吹雪(詞章：三世 桜田春助)

うたと語り：前田千秋 渡辺多真実(Fl.)

語り 桑原洋明 すずきみゆき(Pf)

2010年5月9日(日) すみだトリフォニー(小)ホール

開場：15:00 / 開演15:30～ 入場料：全自由席：3000円

主催：日本音楽舞踊会議 作曲部会 / 後援：月刊『音楽の世界』

